

今読んでいる本に『4 7 都道府県の歴史と地理がわかる事典』というものがある。私の読書スタイルは“併読”なので、何冊かを同時に読み進めている中の1冊である。4 7 都道府県ごとに書かれているので、ちょっとしたすき間時間に一つの都道府県を読むことができる。

なぜこのような本に手を出したのか。以前からずっと抱いているものの一つに「日本のことがわからない。自分の国のことがわからない」ということがあった。「秘密のケンミンSHOW」というテレビ番組を見れば「なるほど、へ～」ということはある。しかし、食べ物を中心とした表層的な知識に限られる。

世界地図を見ればわかることだが、日本という国は小さい。にもかかわらず未だに行っていない県がある。行ったことはあってもよくわからないことが多いのが事実である。近い将来、4 7 都道府県を制覇するとして前もって予習をしておきたい。あるいは、行ったことがあるとしても再発見を試みたい。

みなさんは、福島県の県名の由来をご存じだろうか。昔、小学生のときに担任の先生からそれらしいことを聞いた記憶はある。この本には「強い風が吹きつける（＝吹島）という地名が変化したなど諸説あり」とある。安心してもらいたい。由来がはっきりしない県名は他にもたくさんある。「県章」のデザインに関しては福島県はわかりやすい。「ふ」の字が前進するイメージでデザインされている。面積は全国第3位である。県庁所在地は福島市だが、人口はいわき市と郡山市のほうが多い。福島市だけではない。人口が一番多いわけではない県庁所在地は他にもある。猪苗代湖の面積は全国第4位である。果樹栽培が盛んでフルーツ王国と呼ばれることもあるが、主力のモモは山梨県に次ぐ全国第2位である。福島県出身の有名人を見てみると、「西郷四郎」という名前があった。柔道の姿三四郎のモデルとなった人である。俳優のディーン・フジオカの名前もある。

福島県のページを読んでみると、驚くべき新たな発見というものはない。方言には、「さすけね」「ごせやげる」などが出ている。他の都道府県のページを読むとおもしろい。「そうだったのか」と思わされることが書かれてある。お隣の山形県はというと、マクドナルドの進出が国内で一番遅かった（1990年）そうである。これは旧ソ連のモスクワより遅い記録である。人口あたりのラーメン店が一番多い県であることも関係していたのか。また、すべての市町村に温泉があるのは山形県だけである。

北海道から順番に読み進めている。奈良県まで読んで、次が和歌山県である。この先はあまり行ったことがない県が続く。それだけに楽しみである。計画的な旅行で行く場合は、ある程度予習はするが、その土地のおいしいものや観光スポットぐらいである。その県の歴史や文化まではあまり学習することはない。この本には、地理、気候、特産、歴史、学校、経済、行事・祭り、方言などが載っている。一度読んで頭に入れておくと、その土地の見方が変わってくるように思う。

皆さんのお友達や知り合いが福島に来てくれたとする。ご当地グルメとして何を紹介するだろうか。喜多方ラーメン、こづゆ、ソースカツ丼、いかにんじん、なみえ焼きそば、福島円盤餃子、クリームボックスなどだろうか。お土産はどうするか。ままだおるだろうか、柏屋薄皮饅頭だろうか。大人の方ならば会津の地酒もある。私は何度か他都府県に福島のお土産を持っていったことがある。毎回悩むが、結局ままだおるに落ち着く。だが、それでいいとは思っていない。

最近では、インバウンドによる外国人の方のほうが日本に詳しいのではないかと思うことがある。これではいけない。さすけねとはいかない。まずは自分が住む福島市のことを知ることから始めようと思う。